

射和商人の里と、街道の出会い・相可

江戸時代の相可(おうか)は、大和と伊勢を結ぶ伊勢本街道と、熊野街道に抜ける熊野道が出合う宿場としてにぎわいました。

2つの道が交わる所には「札の辻」(道標広場)と呼ばれ、「お上(かみ)」の御触書が張り出されたといひます。

広場には「相庭七つ井戸三乃井」があり、かつてはここで旅人や馬が喉の乾きを潤しました。その脇には街道名物のまつかさ餅(創業元禄期)がいまも遠来のお客をもてなし、街道の面影をしのぶことができます。

両郡橋のまたいで櫛田川の対岸には、松阪商人発祥地の射和(いざわ)・中万(ちゅうま)地区があります。

射和・中万は、松阪開府以前から射和商人のまちとして繁栄しました。室町時代には、櫛田川上流の丹生(にう)で産出される水銀で財を蓄えたといわれますが、江戸時代になると松阪商人に先駆けていち早く江戸に進出し、富山、家城は呉服商、国分、竹口は醤油、味噌商、竹川は両替商などを営み、江戸屈指の豪商に数えられました。今でも射和町の国分邸や竹川邸、中万町の富山邸や竹口邸辺りにかつての豪商の面影を偲ぶことができます。



射和の古い土壌



相可の町並み

相可・射和・中万

◆お勧めコース(約4.5km)

神山一乗寺～中万町町並み～国分家(射和)～竹川家(射和)～伊藤寺
～延命寺～両郡橋～「札の辻」(道標広場)



両郡橋から櫛田川を望む

